



# With you

ウィズ ユー

日本国連HCR協会ニュースレター（創刊号）

No.1 2004年 第1号



## C O N T E N T S

- 2004年の募金キャンペーン 2
- 第1回助っ人講師養成講座  
支援者と援助現場を結ぶ
- 小さな花のもつ大きな意味 3  
— アンジェリーナ・ジョリー —
- ご寄附の方法いろいろ  
副題公募
- タイの難民キャンプ報告 4  
アフガニスタンの新しい先生たち
- 写真展&講演会  
「国境を超えて」のお知らせ

日本国連HCR協会から、ご支援をいただいている皆様に新しいニュースレター「With you」をお送りすることになりました。2004年は3回発行します。

# 2004年の 募金キャンペーン

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の援助対象者は難民、国内避難民、帰還民など、約2000万人。必要とされる2004年度予算は約1100億円です。各国政府の任意拠出金と皆様からの寄附金がUNHCRの活動を支えています。日本国連HCR協会では以下の3つを中心に2004年の募金活動を進めています。ご寄附の際、いずれかをご指定ください。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

## 1 アフガン帰還難民に家を!

周辺諸国で難民生活を送っていたアフガン難民の故郷への帰還が2002年春から本格化しました。彼らの生活はまず家の再建から始まります。HCR協会では2002年10月に始めたアフガン帰還難民の住宅再建支援キャンペーンを2004年も継続しています。昨年未までに日本の皆様から約8500万円のご寄附をいただきました。

2003年はUNHCRが昨年目標とした再建数の約95%にあたる5万戸が完成しました。主に日干しレンガを使うアフガニスタンでは、日本円にして約10万円で8人家族用の家を建てることができます。

UNHCR / N. Behring



## 2 アフリカ難民に水を!

UNHCRの2004年度予算を地域別にみるとアフリカが一番大きく、半分近くを占めます。その中でも難民への給水事業は重要なプログラムです。世界では6人に1人が安全な飲料水を手に入れることができません。特にアフリカの難民がおかれた状況では、きれいな水を確保することは非常に困難です。

UNHCRでは難民1人が1日に必要とする水の量の目安を15~20リットルと設定していますが、一部の地域では1日3リットルも確保できない難民もいます。約8万4000円で浅井戸を1本掘削できます(金額は地域、条件によって変わります)。

UNHCR / M. Brooks



## 3 アフリカ難民に教育を!

UNHCRは難民の子どもたちが教育の機会を得られるように、校舎の建設、教材・備品の供給、教師の養成、職業訓練プログラムを支援しています。アフリカの場合、特に女子の就学率が低く、その向上にも努めています。

ソマリアでは小学校の就学率が約17%、就学児童に女子生徒が占める割合は低学年で約35%です。HCR協会は長年の紛争で疲弊したソマリア難民および帰還民の女子教育事業を支援しています。ソマリア難民の多くは隣国のケニアやエチオピアで暮らしていますが、故郷への帰還も進みつつあります。約3万円で100人分の教科書が購入できます。

UNHCR / R. Hakozi



他のプログラムへのご寄附も常時お受けしていますので、お問い合わせください。また、UNHCRの日本語ホームページもご参照ください。http://www.unhcr.or.jp

## 第1回「助っ人講師養成講座」 のご案内

助っ人会員の皆様をご自身で、難民問題やHCR協会の活動について、母校や草の根サークルなどで話してみたいとの声が寄せられます。そこで、民間の皆様に向けて広報・募金活動を進めているHCR協会の活動内容を理解し、協会の一員としてお話していただくための養成講座を開くことになりました。背景となるUNHCRの活動や難民問題を含めて紹介します。

日程 2004年3月4・11・18日(木)〔全3講座〕

時間 17:00 ~ 19:00 (予定)

場所 UNハウス(国連大学ビル)6階

対象 助っ人会員の方

全3講座参加可能な方

定員 10名(先着順)

\*募集要項をご希望の方は、HCR協会へメールまたはFaxにてお申し込みください。

## 支援者と援助現場を結ぶ

UNHCRの日本人職員として、現在ネパールのダマック事務所にてブータン難民の援助活動に携わっている森山毅さんは、98年以来オーストラリア、ミャンマー、パキスタンの現場で活躍してきました。



森山毅さん

ネパールのブータン難民問題は、長期にわたって解決への努力が続けられていますが、今でも厳しい状況が続いています。2003年10月にJ.S.Foundationより、ブータン難民の教育支援に多額のご寄附をいただきました。昨年12月、休暇で日本に帰国されていた森山さんから、J.S.Foundationの佐藤佐江子代表に、ブータン難民の現状について直接、説明していただく機会がありました。

歌手の浜田省吾さんのコンサート会場でもいつも募金を呼びかけている佐藤さんは、「UNHCRで働くスタッフを信頼して、皆様からの募金の一部をUNHCRへの寄附に充てています」と語り、森山さんは「現場での援助活動に携わる1人として、ご寄附を集めてくださっている佐藤さんに直接お目にかかれたことは大変貴重な機会でした。他のスタッフや難民の皆さんにもぜひ伝えたいです」と話していました。

ブータン難民支援には宗教法人真如苑などからもご寄附をいただいています。



スリランカを訪問したアンジェリーナ・ジョリー

UNHCR / L. Taylor

## 小さな花のもつ大きな意味 アンジェリーナ・ジョリー

UNHCR親善大使であるアンジェリーナ・ジョリーが、旧ユーゴスラビアのコソボとスリランカを訪問した体験を綴った日記は、小さな出来事を通して、難民たちの希望や失望を鮮やかに描き出している。

2002年12月、ジョリーはコソボに行き、クロアチア難民や少数民族など様々な背景を持つ人々が、不安定な状況下で共に暮らすコミュニティを訪問した。

悲しい場所だった。普通の生活にいつ戻れるかわからない。本当に喜べることもない。しかし、生き抜こうとする力、将来に向けて生活を立て直し、かつての敵を隣人として受け入れていく力強さを感じた

荒涼とした中であっても、ジョリーは数々の希望が予期しない場所に生まれていることに気づいた。UNHCR職員が花を持って現れたときのことを、彼女は次のように記している。その部屋にいた人々は花をずっと見ていなかったのか、そこから長い会話が始まった。「どこで見つけたの？どこに咲いていたの？偶然、種が飛んできて咲いたのかしら？」「ビルの後ろに小さなガラス工場があって、そこで花を育て始めたの」とその会話はしばらく続いた。私はかつて、わずかに数本の花にこれほどの関心を寄せたことはなかった。育つということに意味がある。爆撃され、寒さに凍えた国でも花は咲く。それはとても大きな意

味を持つのではないだろうか

2003年4月にスリランカを訪問したジョリーは、20年にわたる内戦終結後に故郷に戻ってきた数家族に会ったとき、同じような経験をした。ある家での出来事を次のように記している。奥さんが素っ気なく言った。「暮らしは本当に大変。飢え死にするかもしれない、自分に火をつけてしまうかもしれない、と思うこともある」

しかし、他の家ではこんなことがあった。

おじいさんが瓦礫の山を指差してこう言った。「わたしの弟の家だ。弟はまだこの瓦礫を見てないんだよ」そして冗談めかして「やる事がいっぱいあるね」と付け加えた

ジョリーはUNHCRの援助現場を視察した体験をすべて日記に綴っている。その多くは、「Notes from My Travels」(Simon and Schuster刊)そして日本語版は『思いは国境を越えて』(産業編集センター刊)として出版されている。

(イギリス版「With you」2003 Issue 2より)

アンジェリーナ・ジョリーの活動に関してはUNHCRのホームページもご参照ください。 <http://www.unhcr.or.jp/news/>

ジョリー主演の映画『すべては愛のために』が2003年12月20日から公開されましたが、それに先立つ12月11日、東京渋谷の青山劇場で、チャリティ・プレミア試写会が開かれました。上映後の会場募金には多くの方々にご協力いただき、約28万円にのぼる寄附金が集まりました。

### ご寄附の方法いろいろ

日本国連HCR協会はUNHCRの日本での正式な寄附窓口です。

HCR協会では、下記の方法でご寄附を常時お受けしています。

ご寄附は、特定寄附金として所得から控除できます。

郵便局(振込手数料は協会負担です)

郵便振替口座: 00140-6-569575 加入者名: HCR協会

銀行(皆様のご住所等をHCR協会へお知らせください)

UFJ銀行 青山支店 普通口座 5251034

三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通口座 3478195

口座名(・共通): エイチシーアールキョウカイ

毎月倶楽部

郵便局または銀行口座から毎月自動振込によるご寄附。1000円以上(千円単位)で金額をご指定ください。ご希望の方には申込用紙をお送りします。

相続財産のご寄附

相続財産を得た方が、相続税の申告期限内にHCR協会に寄附した場合、課税価格の計算の基礎に算入されません。また遺贈を検討されている方は当協会にご相談ください。

インターネット募金

現在、ホームページからご寄附をお受けできるよう準備中です。

HCR協会のホームページをご覧ください。

### 「With you」副題公募のお知らせ

新しいニュースレターのタイトル「With you」(ウィズユー)は各国共通のもので、そこで日本の支援者の皆様から日本語の副題を公募することになりました。英語タイトルに関連した意味で、親しみやすい日本語をご提案ください。

FAX: 03-3499-2273 Eメール: [info@japanforunhcr.org](mailto:info@japanforunhcr.org) 締め切り: 2004年3月末日

認定NPO法人 日本国連HCR協会  
[ 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)日本委員会 ]  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70  
UNハウス(国連大学ビル)6階 UNHCR内  
TEL: 03-3499-2450 FAX: 03-3499-2273  
Eメール: [info@japanforunhcr.org](mailto:info@japanforunhcr.org)  
ホームページ: <http://www.japanforunhcr.org>

「With you」No.1 2004年 第1号(1月)

発行人: 赤野間征盛

編集: 山本浩、中村恵、井上清治、奥平章子  
デザイン・製作: ㈱ポイントライン

# タイの難民キャンプ報告

**昨**年12月初旬、タイのミャンマー難民キャンプを訪問する機会を得ました。タイには内務省(MOI)に登録されている難民が約11万人、登録されていない難民を含めると約14万人がいと推定されます。そのほとんどが1980年代以降、ミャンマーの軍事政権との衝突や人権抑圧からタイに逃れてきたカレン族とカレニー族の人々です。タイにはミャンマーとの国境付近の山間部に計9つの難民キャンプが点在し、私が訪問したタムヒン・キャンプとバンドンヤン・キャンプはそれぞれ国境から12キロと800メートルの位置にあります。

キャンプではいくつかのNGO(非政府組織)が協力して援助活動を進めています。それぞれに専門分野があり、学校や診療所の運営、食糧の配給などを担当しています。日本のNGOである「シャンティ国際ボランティア会(SVA)」がバンドンヤンで図書室を運営し、カレン語、ビルマ語、タイ語の翻訳が貼られた絵本を子どもたちが熱心に読んでいました。

UNHCRは主に難民保護、タイ政府との折衝、各NGO間の調整、そしてキャンプ内での性的虐待(SGBV)を防止するためのプログラムを進めています。



タムヒンは1997年に設営され、その狭さから、9つあるキャンプの中で環境がもっとも悪いと言われていました。約9000人が約73平方キロメートルに住み、最近ではゴミを埋める場所もなく困っているそうです。当時の高等弁務官であった緒方貞子氏が2000年に訪れ、スペース拡大の必要性を訴えましたが、まだ実現されていません。

バンドンヤンはタムヒンより広く、難民は畑で2~3か月分の野菜を自給できます。しかし、難民がキャンプの外で経済活動することは認可されていません。そのためかキャンプ内の男性はすることがなく手持ち無沙汰の印象を受けました。サッカーボールを蹴って遊んでいた子どもたちは対照的でした。「難民となって6年が過ぎました。みんなが働き方も忘れてしまったのではないかと心配です」とタムヒンのキャンプ委員会副委員長のダニエル氏が言う

いました。

キャンプ内には学校の他に職業訓練プログラムがあり、裁縫、機織り、料理、車修理などを教えています。タムヒンでは料理クラスで作ったという非常に美味しい昼食をご馳走になりました。バンドンヤンでは故障した発電機をプログラムの卒業生が修理することができたという話も聞きました。

タイの難民キャンプは比較的恵まれた環境にあるのかもしれませんが。世界にはもっと過酷な状況にある難民キャンプが数多く存在します。しかし、カレン族やカレニー族の人々にとって、故郷を追われ、難民キャンプでの生活を強いられているということは紛れもない事実なのです。バンドンヤンのキャンプ委員会のクヌ委員長が、「とにかく、早く故郷に帰りたい」と話していたのが印象的でした。

(井上清治 日本国連HCR協会)

## アフガニスタンの新しい先生たち

**皆**様からのご寄附は、アフガニスタンの住宅再建プロジェクトだけでなく、アフガン難民の帰還に関わる様々な支援活動にも活用されています。その一例をイギリス版「With you」より紹介します。

「もし読み書きができれば、もっと世界について知ることができるだろう。アフガニスタンの識字率がもっと上がれば、戦争を防ぐことにもつながるかもしれない」アフガニスタンの新しい先生、モハンマド・アリ(25歳)

2002年春以降、200万人以上のアフガン難民が故郷に帰還した。ご寄附は故郷へ戻るための旅費や地雷回避教育、子どものワクチン接種、ピニールシート、石鹸、生理用品、小麦粉の支給などに使われる。またUNHCRはアフガン人の若い先生を養成するプログラムも実施している。

イランで研修を受けていたアフガン人の新しい先生約1000人が帰国の途についた。

アフガニスタンの平和と繁栄を担うのは若者たちであり、そのためにUNHCRは青年援助プログラムの一つとして、先生の養成を行っている。

この記事が読まれる頃にはハニフェ・アリと弟モハンマドは、崩壊した教室で、子どものみならず大人にも読み書きを教えるのに奮闘しているだろう。帰還民の約7割が教育を受ける機会がない国では、彼らの努力はかけがえのないものである。

若い先生の研修にかかる費用は1か月でわずかに約3000円である。UNHCRのアフガニスタン支援に寄附してくださった人々は、この新しい先生から学んだ生徒が、国の復興に欠かすことができない医師、企業家、技術者、先生などに育っていくことを期待できるだろう。

今のアフガニスタンが抱える問題の中には、長年にわたって教育の機会がなかったことに起因するものがあると多くの人々が感じている。アフガニスタンの新政権は学



イランの学校で学ぶアフガン難民の少女たち

校や大学を修復し、新しい先生を募り、全ての子どもたちが学校に登録できるように努力している。しかし、教室、教材、先生の不足が大きな壁となっている。

(イギリス版「With you」2003 Issue 1より)

### 「難民教育基金」(RET)情報

パキスタンでは2001年9月から5年計画で、おもに北西国境地域のアフガン難民の中等教育を支援している。ベシャワールのリソースセンターでは、4人のアフガン難民女性が数学、生物、化学、物理を担当し、新しい世代の教師養成に努力してきた。2002-03年度には、3つの中学校で生徒2120人(女子1323人、男子797人)教師134人(女性92人、男性42人)を直接支援し、間接的支援は1万2084人の生徒に及んだ。